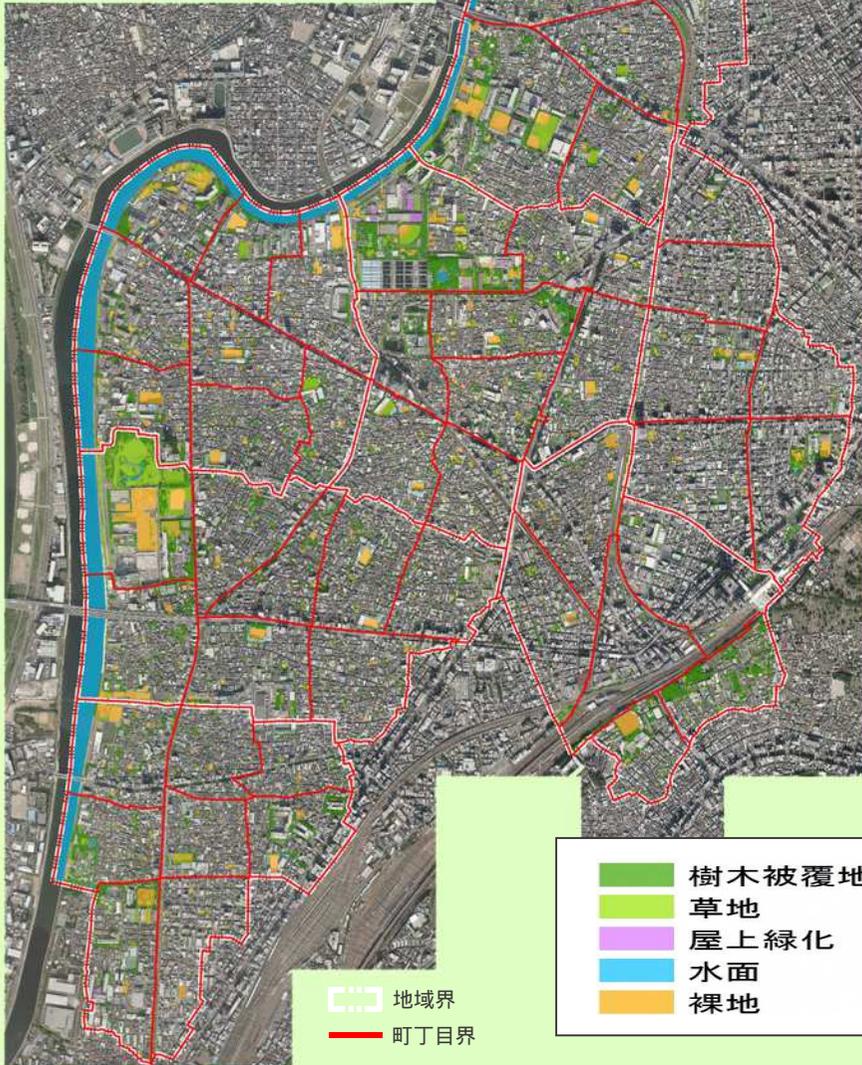


緑被分布図



荒川区上空から見た様子です。
「荒川自然公園」や「都立汐入公園」などの大きな公園は、たくさんの緑で覆われていることが分かります。



■	樹木被覆地
■	草地
■	屋上緑化
■	水面
■	裸地

□ 地域界
□ 町丁目界

【平成29年度】 荒川区みどりの実態調査(第5次)報告書 概要版

荒川区では、緑の現状を把握するため、おおむね10年ごとに緑の実態調査を行っており、今回は、平成19年度に続き5回目の調査となります。調査結果は緑化推進事業の参考としています。

緑被の現況

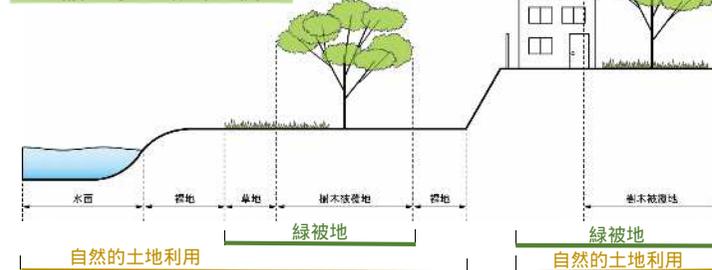
調査方法

空中写真を撮影し、その写真を基にしたデータを画像分析し、緑で覆われた面積を判読します。空中写真撮影は、平成29年7月15日よく晴れた日に行いました。

緑被の現況

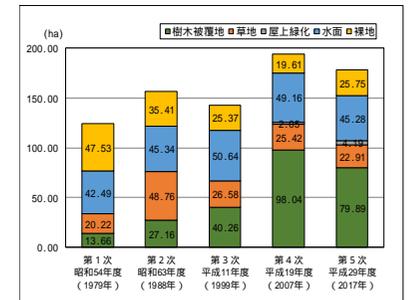
区分	面積	比率
樹木被覆地	79.89ha	7.86%
草地	22.91ha	2.25%
屋上緑化	4.19ha	0.41%
緑被地	106.99ha	10.53%
水面	45.28ha	4.46%
裸地	25.75ha	2.53%
自然的土地利用	178.02ha	17.52%
みどり地	171.42ha	16.87%
区全体面積	1,016ha	100%

用語が示す場所の例



緑被地・・・樹木、草地、屋上緑化などの緑に覆われた部分
みどり地・・・緑被地に「水面」及び「公園内の非緑被地」を加えたもの

緑被の推移



第4次調査（平成19年度）から屋上緑化調査を実施

緑被率

平成19年度 12.35%
平成29年度 10.53%
(1.82%減)
荒川区全体に占める緑被地の割合

みどり率

平成19年度 18.50%
平成29年度 16.87%
(1.63%減)
荒川区全体に占めるみどり地の割合

10年前の調査と比較すると緑被率、みどり率ともに減少しています。これは、国道や都道において無電柱化等の整備に伴う街路樹の更新や建物の更新とともに樹木が伐採され、樹木被覆地が減少していることが影響していると考えられます。

緑被の現況

屋上緑化

平成19年度 平成29年度 平成19年度 平成29年度 平成29年度
 2.05ha 4.19ha 989棟 1,110棟 0.20% 0.41%
 (2.13ha増) (121棟増) (0.21%増)

平成19年度の屋上緑化面積は非建物面積等を含む



- 上空から見た屋上緑化 -

近年の再開発事業等において積極的に屋上緑化が推進されています。平成19年度の調査時と比べて、この10年間で、**2倍以上の屋上緑化が整備されています。**

公園・児童遊園・グリーンスポット等の状況

緑被率 面積
 平成19年度 平成29年度 平成19年度 平成29年度
 64.30% 55.45% 42.68ha 45.49ha
 (8.85%減) (2.81ha増)



緑被率は減少していますが、面積は増加しています。これは、区が身近な緑を増やすことを目的として児童遊園やグリーンスポットの整備を進めているほか、地域のオープンスペースとして防災広場や防災スポットの整備を進めていることが影響しています。

保護指定樹木等

保護指定樹木

平成19年度 平成29年度
 76件207本 61件187本
 (15件20本減)

保護指定樹木...地上1.5mの高さにおける幹の周囲が1.2m以上の樹木で、区が指定したもの。
 保護指定樹林...樹木の一群が占める土地の面積が300㎡以上で区が指定したもの。
 保護指定生垣...生垣をなす樹木の集団でその長さが20m以上であり、区が指定したもの。

保護指定樹林

平成19年度 平成29年度
 2件4,800㎡ 2件4,800㎡
 (増減なし)

保護指定生垣

平成19年度 平成29年度
 6件185m 5件155m
 (1件30m減)



保護指定樹木等は、平成25年度をピークに減少傾向にあります。これは、新たな建物の建築にあたり、伐採が行われているためであると考えられます。

緑視率

緑視率とは、人の視界に占める緑の面積の割合のことで、緑視率が25%を超えると良好な心理的効果を及ぼします。(国土交通省)
 今回の調査では、歩道、交差点、駅、拠点施設の4つの調査区分から区内51か所の緑視率を調査しました。

調査区分ごとの平均緑視率

歩道	12.0%
交差点	20.4%
駅	4.1%
拠点施設	13.3%



緑視率10%の歩道の例



緑視率25%の交差点の例

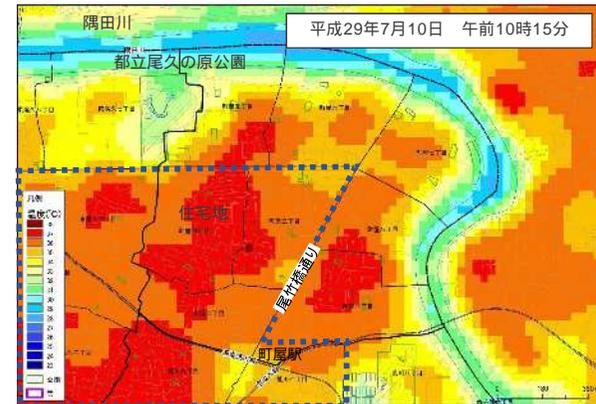
どの区分においても平均緑視率は25%以下でした。

緑視率については、第5次調査から実施

地表面温度

温度分布図

区内の地表面温度は31.0~38.0の間となっており、面積の広い公園や緑地付近では、周辺よりも3~4程度、地表面温度が低いことがわかりました。



密集住宅市街地整備促進事業区域

「都立尾久の原公園」や「隅田川」では、平均地表面温度が低くなっています。一方で、住宅密集地域では、平均地表面温度が高くなる傾向があります。

参考 町屋地域の温度分布図

地域別の平均地表面温度と緑被率・みどり率

地域名	平均地表面温度		緑被率	みどり率
	日中	夜間		
南千住地域	34.39	24.08	13.16%	24.01%
荒川地域	35.56	24.13	11.82%	15.63%
町屋地域	34.86	24.07	8.42%	19.00%
東尾久地域	35.28	24.19	12.06%	18.17%
西尾久地域	35.70	24.21	9.37%	15.57%
東日暮里地域	35.21	24.40	5.61%	6.33%
西日暮里地域	34.66	24.28	9.28%	9.73%
区全域	35.02	24.17	10.53%	16.87%

「緑被率」または「みどり率」が高い地域では、全体的に平均地表面温度が低いことがわかります。